

げんき No.57

兵庫県立こども病院
ニュースレター



カエル



平成 29年(2017) 3月 15日

「神戸陽子線センター(仮称)」に期待を寄せる



病院長 長嶋 達也

院長室の窓からは広々とした公園を一望することができます。今は冬枯れの公園に出てみると、ナンキンハゼの葉が落ちた後の枝先に、白い実が残っています。間もなく立春です。「げんきカエル」が皆様のお手元に届くころは、小川には小さな鮎(はや)の群れがすばしこく泳ぎ、川端のネコヤナギの白い芽や桜のつぼみもふくらんでいることでしょう。

公園に出てこども病院を振り返ると、南側に大きな建物の工事が進んでいます。こども病院より背の高いクレーンが大きな治療装置を搬入しているのが見えます。「神戸陽子線センター」です。この施設は、こども病院と一体となって小児がん患者への「陽子線治療」を行うことを最大の特長としています。全国屈指の粒子線治療実績を持つ県立粒子線医療センターの付属施設として、成人も含めたあらゆる年代の患者に陽子線治療を提供する施設として整備されつつあります。8月に竣工し、12月に開設予定で工事は順調に進んでいます。2016年4月に小児がんに対する陽子線治療が保険適応になったことから、高額な費用を要した治療が負担なく受けられるようになり、治療開始への期待が高まっています。

こども病院は、わが国の小児がん拠点病院の中

でも治療患者数が最も多い病院の一つであり、外科的治療、化学療法、放射線治療からなる集学的治療に取り組んでいます。小児がんのこども達の7-8割は生存し、多くは成人していきます。成長の過程で、治療に伴う様々な合併症に悩まされることが大きな問題になっています。その一つに放射線照射による晩期合併症(ゆっくり現れる合併症)として、知能障害や成長障害、二次がんの問題があります。陽子線治療は従来の放射線治療に比べて、晩期合併症の頻度を少なくすることが期待されています。わが国で唯一こども専用の陽子線治療装置を有する施設なので、期待に応じて全国のこども達に最適な治療を提供できるよう、こども病院の全力を尽くして協力してまいります。

新病院の開院から1年を迎えようとしています。取り組むべき多くの課題があります。課題をひとつずつ解決しながら、兵庫県における小児医療の「最後の砦」を守るという使命を果たしてまいります。多くの方々の温かい支援を賜りますようお願い申し上げます。





クリスマスのケーキバイキングとお食事

栄養管理課長 徳田 慶造

栄養管理課では、患者様に入院中も家庭と同じようにイベントや、季節毎の食事を楽しんでいただこうと年間を通していろいろな行事食を提供しております。特に12月は冬至、クリスマス、年末年始と行事食を提供する機会が多い時期となります。街が色づくクリスマスシーズンには調理員が腕に縋りをかけてケーキバイキング用のケーキを作り、管理栄養士等も患者様が喜ぶ顔を思い浮か

べながらブーツにお菓子を詰め込んでいきます。

また、クリスマス当日には普段とは違うクリスマスの食事を提供して、患者様の早期回復を願っています。

昨年は新病院で迎える初めてのクリスマスということで、気分を新たに実施しました。

今回は、昨年実施したクリスマスの食事の一部を皆さんにご紹介します。



ミルフィーユ



ガトーショコラ



抹茶シフォン



プチシュー



ショートケーキ



患者さんと病院を感染症で迷子にしない、 それが感染症科

小児感染症科 笠井 正志

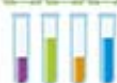


2016年4月より当院に感染症科が正式に設立されました。科長(筆者)とフェロー1名の2名体制で始まりました。わが国の小児専門病院で、「入院患者」を受け持たずに「コンサルテーション」を中心に感染症診療を専門に行っている独立した感染症科は、国立成育医療研究センター感染症科、都立小児医療センター感染症科について3番目です。2017年度より始まる小児感染症専門医(指導医)制度の教育指導施設(西日本では当施設を含めて4施設のみ)にもエントリーしています。当科開設以降12月までの9か月で400件を超えています。すべての診療科から安心してコンサルテーションをしていただけますように、丁寧に、原則・基本に忠実に、そして世界標準の感染症診療を実践していきます。院内・外、医師・非医師(ナースだけでなく、病院全てのスタッフ)を問わず、ご相談を喜んで受け付けます。

診療業務の他に、感染対策室(Infection Control Team:ICT)では感染管理認定ナース、微生物検査技師、薬剤師と共に感染対策活動を、抗菌薬適正使用チーム(Antimicrobial Stewardship program Team:AST)の一員として、薬剤師やコメンターの医師と共に抗菌薬適正使用に取り組んでいます。患者さん中心の病院になるために多職種連携するチームのロールモデルを目指して活動しています。また予防接種センター業務も兼任し、相談業務、接種業務、教育活動を実践しています。

事程左様に、当科の仕事は多岐にわたっています。「感染症で迷子にしない。感染症を治すだけが仕事ではない。感染症に関する全てに笑顔で対応し、患者さんと職員を幸せにする」をモットーに、院内をあちこち動き回り、話し合いをしています。いつでもお気軽にお声かけいただけますと幸いです。





細菌検査の遺伝子検査を開始しました

検査部 亀山和明

近年、微生物検査では遺伝子の解析により感染症の原因となる病原体を特定する方法が積極的に日常検査に導入されるようになってきています。遺伝子検査はウイルス、クラミジア属、マイコプラズマ属、百日咳菌など、培養が困難な病原体や培養に時間がかかる病原体の特定に用いられます。

当院、検査部細菌部門でも新病院移転後より遺

伝子検査を開始しました。現在、当院で検査できる項目は、マイコプラズマ・ニューモニエ、クラミジア・トラコマチス、結核菌群です。遺伝子検査を院内で開始することにより開始以前と比べて医師に結果を返すまでの時間が大幅に短縮でき早期診断に貢献しています。

今後もウイルス検査など随時、項目を増やしていく予定です。



編集後記

ポートアイランドに移転してもうすぐ1年が経とうとしています。その間に周りの景色も色々と工事が進み少しずつ変化しています。我々も患者様とご家族のために今後も新しく変化し続け、その様子をげんきカエルでお知らせしていきたいと思っております。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：大津雅秀 大西美樹
井口秀子 山本正子
沼田憲作 由良沙央理
石田猛人 福本宏文
中村典子

Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- **基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>